

令和5年度定時社員総会議事録

日 時 令和5年5月17日（水）14時30分～17時40分

場 所 福岡市 ホテルオークラ福岡 4F 平安

代議員（社員）総数 304名（過半数は153名、3分の2は203名）

出席代議員数 232名（うち委任状による出席者47名）

出席役員 理事 村上信五、大森孝一、丹生健一、朝蔭孝宏、池園哲郎、欠畑誠治、
香取幸夫、川寄良明、小島博己、小林一女、塩谷彰浩、曾根三千彦、
野上兼一郎、兵頭政光、堀井 新、本間明宏、守本倫子、山嵜達也、
吉崎智一。

監事 岡本美孝、高橋 姿、明海国賢。

議事録作成者 理事長 村上信五

司会の塚原清彰幹事から開会宣言があった後、中川尚志会長（第124回日耳鼻総会・学術講演会）から挨拶があった。

開 会

定款第16条に基づき村上信五理事長を議長に選出した。

村上信五議長から、定時社員総会・学術講演会開催にあたり、中川尚志会長はじめ九州大学関係者に対する謝辞、ならびにここ数年来の新型コロナウイルス感染症流行下での定時社員総会の開催状況および令和4年度の財務状況の概要等について、説明があった。

また、村上信五議長から、今回の代議員の出席者は185名、委任状による出席者47名の計232名で、開催および定款の変更の定足数（代議員304名の過半数153、および3分の2以上203）に達しており、定款第14条第1項および第18条第1項に基づき令和5年度定時社員総会を開会するとの宣言があった。

議事録署名人には医育機関から福岡県地方部会の梅野博仁代議員、開業医関係から福岡県地方部会の村塚幸穂代議員の2名を指名した。

次に、令和4年度の物故会員38名に対して、黙祷を捧げた。

その後、審議に入った。

1. 報告事項

第1号報告 令和4年度事業報告について

令和4年度事業報告について、大森孝一副理事長から主要な事業と新たな事業等を中心に報告があり、詳細については、令和5年度定時社員総会資料冊子に掲載されている旨説明があった。

第2号報告 令和5年度事業計画について

令和5年度事業計画について、大森孝一副理事長から令和5年度定時社員総会資料冊子に基づき報告があった。

また、山唄達也国際委員会担当理事から、16th Asia Oceania ORL-HNS Congress の誘致に成功し、平野 滋会員を会長として、2027年3月23日(火)～2027年3月26日(金)に国立京都国際会館において開催することが報告された。

欠畑誠治広報委員会担当理事から、日耳鼻カレンダーについてはサンリオキャラクターの使用料が高額となるため、2024年度以降作成しないことが令和5年4月28日開催の第10回理事会で決定された旨の追加報告があった。

第3号報告 令和5年度収支予算書について

塩谷彰浩財務委員会担当理事から、令和5年度収支予算書の損益計算ベースおよび資金ベースについて令和5年度定時社員総会資料冊子に基づき報告があった。

地方部会を除く日耳鼻本部の収支予算としては、

I 事業活動収支の部では、事業活動収入は、前年度に比べて19,313,000円増の609,830,000円となった。増額の主なものは、5 事業収入 1) 定期集会参加費等収入17,880,000円増、5) 専門医審査登録収入4,090,000円増、および8 雑収入 3) 雑収入6,472,000円増である。また、減額の主なものは、5 事業収入 2) 展示会場収入で3,450,000円の減額が見込まれることである。

事業活動支出は、9,395,000円増の664,310,000円を見込んでいる。1 事業費については、5,163,000円増の527,703,000円である。増額の主なものは、(5) 旅費交通費1,809,000円増、(11) 印刷製本費3,223,000円増、(20) 委託費5,008,000円増、および(24) 雑費6,456,000円増である。一方、減額の主なものは、(1) 職員給料手当2,013,000円減、(3) 福利厚生費1,462,000円減、(4) 会議費2,115,000円減、および(23) HP維持費10,000,000円減となっている。

また、2 管理費は、4,232,000円増の136,607,000円である。増額の主なものは、(15) 諸謝金1,170,000円増、(18) 支払助成金3,900,000円増、および(20) 委託費2,749,000

円増である。一方、減額の主なものは、(1) 職員給料手当 974,000 円減、(11) 印刷製本費 1,437,000 円減、および (16) 租税公課 1,880,000 円減である。

Ⅱ 投資活動収支の部では、投資活動収入は 11,351,000 円で、その内訳は奨学基金取崩収入である。一方、投資活動支出は 26,420,000 円で、奨学基金積立預金支出 7,000,000 円、特別事業積立預金支出 5,000,000 円、什器備品購入支出 800,000 円、退職給付積立預金支出 3,620,000 円、および事務所建替積立預金取崩支出 10,000,000 円である。

Ⅲ 財務活動収支の部は、0 円である。

Ⅳ 予備費支出の部では、予備費 3,000,000 円を計上している。

以上日耳鼻本部をまとめると、当期収支差額は△72,549,000 円であるが、これに前期繰越収支差額 120,000,000 円を加えて、次期繰越収支差額は 47,451,000 円となっている。

地方部会を含む日耳鼻全体としては、

Ⅰ 事業活動収支の部では、事業活動収入 815,183,892 円、事業活動支出 880,746,028 円で、収支差額は△65,562,136 円である。

Ⅱ 投資活動収支の部では、投資活動収入は 11,351,000 円、投資活動支出 31,129,000 円で、投資活動収支差額は△19,778,000 円である。

Ⅲ 財務活動収支の部は、0 円である。

Ⅳ 予備費支出は 3,200,000 円である。

これをまとめると、当期収支差額は△88,540,136 円であるが、これに前期繰越収支差額 472,935,021 円を加えると、次期繰越収支差額は前年度より 1,054,467 円減額の 384,394,885 円である。

第 4 号報告 専門医制度について

丹生健一専門医制度委員会担当副理事長から、①2023 年度の専攻医登録者数は 203 名で、2018 年度の専門医機構制度以来最も少ない人数であること、②2024 年度の専門研修プログラムとして、1 プログラム追加して 102 プログラムを専門医機構に申請中であること、③2018 年度以降に研修を開始した者に係る共通講習の更新基準は必修科目が 8 項目となったこと、④専門医活動期間に上限が設けられたこと等について報告があった。

第 5 号報告 第 125 回総会・学術講演会の宿題報告および臨床講演について

猪原秀典次期会長から、第 125 回総会・学術講演会の宿題報告および臨床講演について、次の会員に依頼したことが報告された。

宿題報告：

・吉崎 智一 会員 (金沢大学 教授)

上咽頭癌 -発癌機構の解明が拓く新規治療の展望-

- ・堀井 新 会員 (新潟大学 教授)
持続性知覚性姿勢誘発めまい (PPPD) -基礎と臨床-

臨床講演：

- ・大久保 公裕 会員 (日本医科大学 教授)
アレルゲン免疫療法 -基礎と臨床-
- ・古川 まどか 会員 (神奈川県立がんセンター 部長)
頭頸部超音波検査 -私が追い求める理想の頭頸部がん診療-

第6号報告 日耳鼻研究奨励賞について

大森孝一副理事長から、令和4年度日耳鼻研究奨励賞受賞者について、次の3名に決定したことが報告された。

- ・栗原 渉 会員 (東京慈恵会医科大学)
新規アンチセンスオリゴによる難聴治療法開発 - hP53 抑制によるアポトーシス制御 -
- ・柴田 博史 会員 (岐阜大学)
iPS 技術を用いた発がんメカニズム解明と頭頸部がん個別化治療の開発
- ・田中 秀憲 会員 (大阪大学)
circulating tumor HPV DNA が切り拓く HPV 関連中咽頭癌医療の最適化

第7号報告 輝く耳鼻咽喉科女性賞について

小林一女男女共同参画委員会担当理事から、輝く耳鼻咽喉科女性賞 2022 について、次の3名に決定したことが報告された。

- ・片岡 祐子 先生 (岡山大学)
- ・丸山 裕美子 先生 (黒部市民病院)
- ・森田 由香 先生 (新潟大学)

第8号報告 耳鼻咽喉科教育・育成功労賞について

小島博己卒前・卒後教育委員会担当理事から、耳鼻咽喉科教育・育成功労賞 2022 について、次の4機関に決定したことが報告された。

なお、耳鼻咽喉科専攻医への勧誘および専攻医育成のために優れた取り組みをしている機関については、一旦募集を休止することが報告された。

耳鼻咽喉科専攻医数が多かった機関

- ・1位 札幌医科大学
- ・2位 山口大学

- ・ 3位 日本医科大学
- ・ 3位 藤田医科大学

第9号報告 耳鼻咽喉科月間優秀企画賞および頭頸部外科月間優秀企画賞について

欠畑誠治広報委員会担当理事から、2023年3月に実施された耳鼻咽喉科月間の優秀企画賞について、以下の3地方部会に決定したことが報告された。

- ・ 1位 愛媛県地方部会
- ・ 2位 宮城県地方部会
- ・ 3位 東京都地方部会

第10号報告 奥田稔研究・教育・助成基金について

村上信五理事長から、一般財団法人奥田記念花粉症学等学術顕彰財団から5,000万円の寄付があり、令和5年4月28日開催の第10回理事会において、「奥田稔研究・教育・育成基金」として、若手医師への研究・教育・育成に使用していくことが承認されたことが報告された。

なお、村上理事長から、2023年耳鼻咽喉科月間優秀企画賞受賞の3地方部会に対し、賞状および目録が授与された。

また、村上理事長から、一般財団法人奥田記念花粉症学等学術顕彰財団に対し、感謝状が贈呈された。

2. 決議事項

第1号議案 令和4年度貸借対照表および正味財産増減計算書に関し、承認を求める件

塩谷彰浩財務委員会担当理事から、令和4年度貸借対照表、正味財産増減計算書および資金ベースの収支決算書について、令和5年度定時社員総会資料冊子に基づき説明があった。

地方部会を除く日耳鼻本部の収支決算としては、

I事業活動収支の部では、事業活動収入は、予算額に対し、91,022,830円増の681,539,830円となった。増額の主なものは、4会費収入約410万円増、5事業収入1)定期集会参加費等収入約7,080万円増、2)展示会場収入約1,030万円増、および8雑収入約1,130万円増である。一方、減額の主なものは、5事業収入の3)広告料収入約260万円減、5)専門医審査登録収入約100万円減、および7寄付金収入約250万円減である。

事業活動支出は、予算額に対し、5,389,834円減の649,525,166円となった。

1 事業費は、予算に対し13,335,596円増の535,875,596円で、増額の主なものは、(6)通信運搬費約320万円増、(11)印刷製本費約900万円増、(15)諸謝金約130万円増、(20)委託費約3,910万円増、(21)支払手数料約320万円増、および(24)雑費約780万円増である。一方、減額の主なものは、(1)職員給料手当約140万円減、(4)会議費約1,380万円減、(5)旅費交通費約2,700万円減、(13)賃借料約270万円減、および(23)HP維持費約320万円減である。

2 管理費では、予算に対して18,725,430円減の113,649,570円となっている。増額の主なものは、(9)図書費約160万円増である。一方、減額の主なものは、(5)旅費交通費約330万円減、(11)印刷製本費約300万円減、(13)賃借料約110万円減、(16)租税公課約670万円減、および(20)委託費約300万円減である。

以上、事業活動収支差額は、96,412,664円増の32,014,664円の黒字である。

Ⅱ 投資活動収支の部では、投資活動収入は、奨学基金取崩収入により、10,276,750円であり、投資活動支出は、奨学基金積立預金支出約930万円、退職給付積立預金支出約460万円、および事務所建替積立預金支出3,500万円等で49,384,400円である。収支差額は36,606,650円増のマイナス39,116,650円である。

Ⅲ 財務活動収支の部では、長期貸付金収入が専門医機構からの返済により、3,167,000円あった。

以上、日耳鼻本部の決算をまとめると、当期収支差額は事務所建替積立預金に3,500万円返戻したこと等により、マイナス3,934,986円であるが、前期繰越収支差額が122,546,269円あったため、次期繰越は118,611,283円である。

地方部会を含む日耳鼻全体としては、Ⅰ 事業活動収支の部では、事業活動収入881,117,692円、事業活動支出816,925,621円で、収支差額は64,192,071円である。

Ⅱ 投資活動収支の部では、投資活動収入は、12,167,750円、投資活動支出52,639,462円で、収支差額はマイナス40,471,712円である。

以上、当期収支差額は26,887,359円であり、これに前期繰越収支差額482,007,980円を加えて、次期繰越は508,895,339円となっている。

監事を代表して岡本美孝監事から、令和5年4月25日に高橋 姿監事および明海国賢監事の3名で監査を行い、適正に行われていることを確認した旨の報告があった。

引き続き、岡本美孝監事から次のような意見が述べられた。

- ・各事業、各委員会ともに非常にアクティビティーが高く、役員、関係の先生方には尽力いただいているところである。
- ・令和4年度は黒字決算となっているが、これは総会・学術講演会および秋季大会の収益が大きく寄与しているものであり、今後の収支については楽観できない状況である。

- ・また、新型コロナウイルス感染症の収束により対面での会議も増えることから、旅費や会議費等の支出も増えることが見込まれる。
- ・については、各事業の計画および遂行に当たっては、予算の重点的配分、効率化、節約に努めて頂きたい。

加えて、村上信五理事長から、公認会計士による報告書においても、適正に管理されている旨記載されているとの説明があった。

令和4年度貸借対照表および正味財産増減計算書について、審議の上、出席代議員の議決権の過半数の賛成により、原案のとおり承認した。

第3号議案 第128回総会・学術講演会の会長候補者選出に関し、承認を求める件

村上信五理事長から、第128回総会・学術講演会の会長候補者選出について、昭和61年2月理事会決定「会長の選出方法に関する理事会申し合わせ」に基づき、令和4年7月に、参与、代議員に会長候補者の推薦を依頼したこと、およびその結果を参考にして令和5年4月28日開催の理事会に諮り、石川県地方部会の吉崎智一会員が会長候補者として承認された旨報告があった。

吉崎智一会員を会長とする提案に対し、審議の上、出席代議員の議決権の過半数の賛成により、これを承認した。

第4号議案 名誉会員に関し、承認を求める件

村上信五理事長から、名誉会員推薦内規に基づき、竹中 洋会員、小林俊光会員、および新川秀一会員を推薦する提案があり、審議の上、これを承認した。

3. その他

1) 会員情報新システムについて

丹生健一会員情報新システムWG担当理事から、共通講習に関するe-learning対応、およびインボイス制度導入に伴う領収書発行システムについて報告があった。

2) 地方部会長および代議員からの提案事項について

① 定時社員総会のリモート参加について

移動時間と出張旅費の削減のため、定時社員総会および医育機関代表者会議をリモート参加できるように希望するとの提案について、千葉県地方部会長からの提案趣旨説明の後、村上信五理事長から、以下の説明を行った。

- ・定時社員総会については、現地参加を原則としている。ただし、令和3年5月の総会において、例外として、大規模災害やパンデミック等やむを得ない事情がある場合は、リモート開催ができるなど定款の改正を行ったところである。

- ・やむを得ない事情以外のリモート参加については、定時社員総会の在り方に係わる問題であるため、現地参加の原則をご理解いただきたい。

② オンライン診療ガイドライン作成について

オンライン診療のガイドライン作成や、スマートフォンを使って鼻内所見を映す簡単に安価なデバイスの開発など、日耳鼻として何か方向性を検討してほしいとの提案に関して、和歌山県地方部会代議員からの提案趣旨説明の後、遠隔診療・オンライン診療に関するWG座長の小島博己理事から、以下の説明を行った。

- ・遠隔医療・オンライン診療はwith コロナ時代の診療の強化、適切な医療の提供という点で非常に重要と思われる。
- ・遠隔医療・オンライン診療に関するWGを2020年に組織し、2021年に「オンライン診療の案内」を発表した。これは、日耳鼻ホームページでもご覧いただける。
- ・その後、2022年度の状況を反映・改定したものを耳鼻咽喉科DXワーキンググループ、学術委員会でチェックしてもらい、理事会で承認された。本日の定時社員総会で配付した「オンライン診療の手引き」がこれである。
- ・本年11月開催の第37回秋季大会でもオンライン診療に関する領域講習と実技を予定している。

③ 補聴器の日ポスター配付について

なるべく経費を掛けないように注意しながら、6月6日の補聴器の日に合わせて、「補聴器の日ポスター」を会員へ配付し、一般の人達への補聴器普及を促してはどうかとの提案に関して、滋賀県地方部会代議員からの提案趣旨説明の後、福祉医療・成人老年委員会担当の香取幸夫理事から、以下の説明を行った。

- ・本日配付しているA4版の補聴器の日ポスターは、日耳鼻がアイデアを出し、医学的監修を行い、日本補聴器工業会に提供し、同工業会が作成したものである。
- ・これは、日耳鼻ホームページにも掲載し、ダウンロードできるようになっている。是非、活用願いたい。また耳鼻科以外の診療科にも貼っていただけるよう啓発をお願いしたい。
- ・また、7月の頭頸部外科月間のポスターと合わせて、5月末までには各地方部会あてに送付する予定である。
- ・デザインについては、本日の意見も踏まえて、今後改善していきたい。

3) WGについて

配付資料「WG報告書」(ホームページ掲載予定)に基づき、以下のWGについて、各座長から中間報告があった。

- ① 日耳鼻学術講演会・秋季大会のあり方に関するWG(座長:兵頭政光)
- ② 専攻医教育WG(座長:小島博己)

- ③ 専門医育成・活用 WG (座長：堀井 新)
- ④ 働き方改革に関する WG (座長：小林一女)
- ⑤ 専門医認定試験改善 WG (座長：塩谷彰浩)
- ⑥ 海外留学推進・支援 WG (座長：藤枝重治)
- ⑦ 近未来の耳鼻咽喉科医療 WG (座長：猪原秀典)
- ⑧ 耳鼻咽喉科頭頸部外科リハビリテーション WG (座長：土井勝美)
- ⑨ 耳鼻咽喉科医療 DX WG (座長：大森孝一)
- ⑩ 新規医療の開発と実用化推進 WG (座長：池園哲郎)
- ⑪ ヘッドホン・イヤホン難聴対策 WG (座長：野上兼一郎)
- ⑫ 補聴器適正普及 WG (座長：香取幸夫)
- ⑬ 言語聴覚士雇用促進 WG (座長：香取幸夫)
- ⑭ HPV 関連がんと HPV ワクチンに関する WG (座長：猪原秀典)
- ⑮ デフリンリンピック支援 WG (座長：中川・福興)

4) SPIOについて

加我君孝理事長から、SPIO の設立趣旨および活動について報告があった。

以上すべての議事が終了した後、村上信五議長から謝辞があり、閉会宣言があった。

令和5年5月17日

一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 令和5年度定時社員総会

議事録署名人 (議長) 村上信五 ⑩

議事録署名人 (代議員) 梅野博仁 ⑩

議事録署名人 (代議員) 村塚幸穂 ⑩